

令和7年度第1回江別市地球温暖化対策実行計画推進協議会会議録（要旨）

と き	令和7年6月27日（金）午前10時00分～午後12時00分
ところ	江別市民会館 37号室
出席者等	委員 【14名】 吉田磨委員、本田広樹委員、三上康隆委員、坂口浩昭委員、渡邊工委員、坂本憲昭委員、西巻伸一委員、干野里佳委員、安倍隆委員、星智子委員、岡崎朱実委員、後木一哉委員、海保富江委員、村田和陽委員 ※佐々木尚弘委員、川口谷仁委員（渡邊氏代理出席）、高見潤委員（本田氏代理出席）は欠席
	事務局 【8名】 近藤生活環境部長、千葉生活環境部次長、堂前環境室長、鈴木環境課長、辻屋環境保全係長、松橋政策担当主査、丹羽脱炭素・環境計画推進担当主査、西尾環境保全係主任
	傍聴者 【0名】
1. 委嘱状交付	近藤部長から委嘱状を交付
2. 開会宣言	
丹羽主査	それでは、これより令和7年度第1回江別市地球温暖化対策実行計画推進協議会を開催いたします。 本日の委員の皆様の出席状況であります。15名中、14名の出席ですので、江別市地球温暖化対策実行計画推進協議会設置要綱の第5条第2項の規定を満たしており、本審議会が成立していることをご報告いたします。
3. 議事	
丹羽主査	これから議事に入りますが、協議会の設置要綱第4条第2項で学識経験者の方を会長としておりますことから、ここからは、会長の吉田教授に進めていただきたいと思っております。 吉田教授、よろしくお願いいたします。
吉田会長	これ以降、私が議事を進めさせていただきます。 まず、次第の「2」、議事（1）の「報告事項」の「江別市における温室効果ガスの排出状況」について、事務局から説明をお願いいたします。
丹羽主査	私から、「江別市における温室効果ガスの排出状況について」についてご報告いたします。 資料1「自治体排出量カルテ①CO2排出量の現状把握」をご覧ください。 こちらは環境省で毎年作成されており、部門別CO2の現況推計結果を含む諸データを市町村別に可視化した資料です。最新では令和4年度（2022年度）の数値データが示されております。 初めに資料左下の3）部門・分野別CO2排出量構成比 令和4年度（2022年度）をご覧ください。緑色の枠の表にありますとおり、江別市における部門別CO2排出量は、全体で73万8千t-CO2であります。前年の令和3年度（2021年度）の76万8千t-CO2から3万t-CO2削減されております。 3）にある円グラフを見ていただきますと、令和4年度の部門別の構成比は、緑色部分の産業部門24%、黄色の部分の業務その他部門19%、赤色の部分の家庭部門35%、紫色の部分の運輸部門20%、灰色部分の廃棄物分野2%となっております。 こちらの部門別ですが、産業部門は、最終エネルギー消費のうち、第一次産業及び第二次産業に属する法人ないし個人の産業活動により、工場・事業所内で消費されたエネルギーを表現する部門、業務その他部門は、一般的に、事務所・ビル、商業・サービス施設、学校、病院、ホテル、旅館、飲食店など、産業部門や家庭部門に分類されない部門を指します。具体的には、第三次産業（サービス業）の多くが該当する部門です。 家庭部門は、家計が住宅内で消費したエネルギー消費を表現する部門です。

運輸部門は、最終エネルギー消費のうち、企業・家計が住宅・工場・事業所の外部で人・物の輸送・運搬に消費したエネルギーを表現する部門です。

廃棄物分野は、廃棄物の焼却やリサイクル、埋め立てなどの過程が該当する部門です。

江別市の構成比の特徴としては、家庭部門の割合が高いことです。

資料の右下の 5) 部門・分野別 CO<sub>2</sub> 排出量構成比の比較（都道府県平均及び全国平均）、横棒のグラフに示されておりますとおり、家庭部門は、全国では 18%、北海道でも 27%であるのに対して、35%と、全国の 2 倍近くとなっております、かなり高い割合です。

また、35%という数値は、江別市の左上の円グラフで示された平成 17 年度(2005 年度)や、その下の平成 25 年度(2013 年度)の構成比よりもだんだんと高くなっている状況です。

次に、資料 2「自治体排出量カルテ④地方公共団体の再生可能エネルギー導入状況及び導入ポテンシャルの現状把握」をご覧ください。

こちらは、直近年の F I T・F I P 制度における再生可能エネルギーの導入設備容量構成比を把握することで、区域内でどの再生可能エネルギーがどの程度普及しているのか、その目安を把握できるものです。

資料左上の円グラフとその右の緑色の枠の表に記載のとおり、令和 5 年度の江別市の区域の再生可能エネルギーの導入設備容量は、合計 56,847kW で、内訳は、住宅等に設置される小規模な太陽光発電設備で 6,200kW、大規模な太陽光発電で 2 万 4,718kW、風力発電が 20kW、バイオマス発電が 2 万 5,910kW となっております。

次に、左側中段の円グラフと緑色の枠の表に記載の、令和 5 年度の区域の再生可能エネルギーによる年間発電電力量についてですが、合計 22 万 1,753MWh で、内訳は小規模太陽光発電設備で 7,441MWh、大規模太陽光発電設備で 3 万 2,696 MWh、風力発電が 42 MWh、バイオマス発電が 18 万 1,574 MWh となっております。

環境省の試算では、江別市の年間電気使用量は、51 万 4,862 MWh ですので、再生可能エネルギーで江別市の年間電気使用量の 43.1%を賄えることが示されております。

一方、下段の 4) の区域の太陽光発電(10kW 未満)設備の導入件数の推移(累積)、黄色の棒グラフを見ますと、令和 5 年度は 1,190 件です。

これは全世帯の約 2%程度に留まっていますが、伸び率はここ 5 年程で大きくなっていることが示されております。

次に、資料右側の 2 地方公共団体の再生可能エネルギーの導入ポテンシャルについてです。

あくまで一定の仮定を置いた上での推計値ではありますが、資料右上の緑色の枠の表に記載のとおり、設備容量で 65 万 1,197kW、年間発電電力量で 83 万 2,634 MWh となり、先ほどの年間電気使用量の 51 万 4,862 MWh を超えるポテンシャルを有するとされております。

その内訳では、太陽光発電の割合が高く、77 万 3,769 MWh、約 90%以上を占めています。

以上が資料 1、資料 2 の内容ですが、資料 1 で示されました排出量の数値は、環境省が国や都道府県の温室効果ガス排出量データを、製造品出荷額や従業者数、世帯数、車の台数などの「活動量」で自治体毎に案分して算出しているものなので、あくまでも目安として活用するものであります。

排出量の数値を踏まえ、資料 2 の再生可能エネルギー導入状況や導入ポテンシャルの現状を把握することで、再生可能エネルギーの導入に最大限努めていくとともに、市域の温室効果ガス排出量の削減目標の実現に向けて、複合的に取組を実施していくことが必要と考えております。具体的な市の取組につきましては、協議事項でご報告いたしますが、市民、事業者、関係団体の皆様と連携して、よりよい施策の展開に努めていくことが重要と考えております。

また、こちらカルテは全国の各自治体のカルテがございますので、他の自治体の数値などにご興味のある方は環境省のサイトから検索いただきたく存じます。

	以上でございます。
吉田会長	ありがとうございます。 委員の皆さまから、何か質問等がありますでしょうか？
渡邊委員	カーム角山の渡邊と申します。 先程の説明の中で、江別市の家庭部門におけるCO2排出量が全国平均の約2倍というご説明がありましたが、要因は何でしょうか。 企業の取組も当然ですが、排出量のグラフを見ると家庭部門が3割以上を占めておりますので、家庭においてもCO2排出量の削減に取り組んでいく必要があると思います。 そうしますと、全国平均より倍になっている要因が分からないと対策できないと思いますので、分かれば教えていただきたいです。
丹羽主査	ご質問ありがとうございます。 家庭部門の排出量が多いという点ですが、やはり地域の特性というところで、住民が多い点はあるかと思えます。 また、家庭部門の排出量が徐々に大きくなっている点につきましては様々な要因がありますが、家庭部門は世帯数を勘案しており、江別市においては世帯数が少し増えているという傾向がありますので、その点で家庭部門の割合が徐々に大きくなっております。
吉田会長	全体の中での家庭部門の割合ですが、これは相対比較なので、絶対的な数字がどうなっているかについても割り戻して見る必要がありますね。
村田委員	補足いたしますと、北海道は積雪寒冷地でございますので、やはり灯油を使ったりボイラーを使ったりすることが多いので、家庭部門においては、比較的全国よりも、北海道又は江別市が多いというふうには言われております。
岡崎委員	このグラフは構成比全体を100%として、その内の18%と35%ということで倍になっているという理解でよろしいでしょうか。
丹羽主査	構成比としては倍になっているという形です。
岡崎委員	先ほど、割り戻して数値を見ないと比較できないという話がありましたが、割り戻した数値ですとどれくらいになるのでしょうか。 また、全国と比べて北海道はCO2の排出量が多いと言われておりますが、どの程度多いか分かるデータというのをお示しいただけないでしょうか。 また、全国平均と江別市の割合だけでは、他の自治体と比べることができないので、他の自治体のデータがどうなっているかも気になりました。
丹羽主査	各自治体における同様のカルテがありますので、近隣市との比較は可能です。 また、今回の資料にはありませんが、人口が同程度の他の市町村との比較ができる表もございます。その中では、道内というよりは本州の同規模の自治体と比較しておりますが、やはり家庭部門の割合が他よりも大きくなっております。
岡崎委員	分かりました。 先ほど渡邊さんがおっしゃったように、家庭部門に対する取組を実施するにあたっては、もう少し具体的なことがわからないと、ここで何をするか議論しても机上の空論のようになってしまうので、もう少し皆様が考えられるようなデータもいただけたらありがたいと思いました。
吉田会長	ありがとうございました。 全体の中での割合ですと数字マジック的な面が出てしまうので、実数が分かると思います。 また、他の自治体や都道府県、全国と比較して江別市の状況をもっと少し詳細に見るといってもいいかなと思います。例えば産業部門の割合は、同規模の自治体に比べると少ないかもしれません。 可能でしたら、次回の協議会までにそういった資料を揃えていただければありがたいです。 他にいかがでしょうか。
安倍副会長	私も、家庭部門の割合が全国平均に比べて倍になっているという点が気になりました。

	<p>一人あたりや1世帯あたりの平均値は、他の自治体と比べて江別市が特別高いということはないという感覚は持っていましたが、実際はどうなのかを知りたいです。特に、道内の雪の多い地域と比べ、江別では一人あたり又は1世帯あたりの排出量にどのような特徴があるのか気になります。</p>
丹羽主査	<p>一人あたりの排出量につきましては、実際にここで示されているものとは異なりますので、なかなか確認が難しいと思われまます。</p> <p>構成比につきましても、先ほど様々な要因をお伝えいただきましたが、それらが複合的に重なっておりますので、具体的に何が要因となっているかというのは我々も把握出来てない状況です。</p> <p>これは私個人の見解ですが、北海道においては雪に対する暖房のエネルギー消費量が高くなると思われますが、道内他市と比べて江別市が極端に高いのではなく、あくまで構成割合の中で他の部門より高くなっているのではないかと考えております。</p>
堂前室長	<p>補足させていただきます。</p> <p>江別市において、家庭部門の排出量の比率が多いというご意見でございますが、ご指摘の通り本日の資料は、構成比ですので中々分かりづらく、実数としてどうなのかというところが見えにくいということかと思えます。</p> <p>ご覧いただいている資料は、実際に江別市独自で調査をしているものとしていないもの、国の資料にある数値を按分して出しているものなど、様々な数字を駆使しておりますが、先ほど安倍委員からご指摘のあった一人あたりの数値等について、実際にお出しできるものがあるかどうか、分かりやすい資料が提供できるかにつきましては、次回の審議会に向けてこちらでも検討して参りたいと思っております。</p>
安倍副会長	<p>家庭部門における値を世帯数で割れば1世帯あたりの値が出てくるのではと思いました。</p> <p>その値が他の自治体と同じぐらいであれば、単に世帯数が多いためという先ほどの分析がそのまま納得できるのですが、何か他よりも多い特徴があったとしたら、その点は改善しなければならないポイントの一つになるのかなと感じたのでご質問させていただきました。</p> <p>難しいとは思いますが、何か役に立つ資料が出てきたら本当に嬉しい限りです。</p> <p>2ページ目のグラフで、江別市はバイオマス発電の容量が大きいという特徴がありますが、これは王子さんのおかげということでしょうか。</p>
丹羽主査	<p>バイオマス発電は他にもありますが、数値的に言いますとやはり王子グリーンエナジー江別の木質バイオマス発電所の容量が大きいものとなります。</p>
安倍副会長	<p>大きい特徴だなと思いました。</p> <p>もう一点ご質問させていただきたいのですが、右側の導入ポテンシャルにある地中熱ですが、江別市は44億MJの導入ポテンシャルを有しているが実際には導入していないという解釈でよろしいでしょうか。</p>
丹羽主査	<p>(5)のグラフが電気のみ容量、(6)のグラフが電力量と利用可能熱量という形になっております。</p> <p>地中熱については全体の53%を占めるポテンシャルがありますが、昨今のエネルギー消費は電力としての消費が進められていますので、地中熱を活用するところには至っていないという状況がございます。</p> <p>また、地中熱での発電は設備導入費用の高さや実際の発電場所の選定など、難しい点があるかと思えます。</p>
安倍副会長	<p>地中熱の発電は、地熱発電とは別物でしょうか。</p>
丹羽主査	<p>地中熱は、熱をそのまま利用するものとなります。</p>
安倍副会長	<p>熱利用だけでも、かなりのポテンシャルがあるんですね。</p>
丹羽主査	<p>再生可能エネルギーそれぞれの導入に関する設置可能面積、風力や風速など</p>

	<p>様々な要因を理論的に算出し、その結果地中熱の導入可能性があるというような形で環境省からこのようなカルテが出ておりますが、実際にその熱を利用するための設備を普及させる事は中々難しいのではないかと思います。</p>
吉田会長	<p>ありがとうございます。 他にいかがでしょうか。</p>
岡崎委員	<p>世の中の流れで、熱利用に力を入れていきたいと思いますという風になってきているように感じますので、これ程のポテンシャルがあるのでしたら、様々なところと連携しながら調査を進めていただき、現状がどうなっているかを教えていただくとありがたいと思いました。</p>
丹羽主査	<p>地中熱については今後発展していく可能性もあると思いますので、他市町村の状況や実績など情報を把握し、江別市で活用できるようなものがあれば、こういった場で報告しながら練り上げていければと思っております。</p>
吉田会長	<p>ありがとうございます。 おそらく資料2の7)で、江別市にどれだけ適用できるかが詳しく書かれているのかなと思いますので、ご確認いただければと思います。 他にいかがでしょうか。</p>
坂本委員	<p>家庭部門の排出量割合の話がずっと出ていたと思いますが、資料1で2013年度の排出量が29万5千t-CO2で、2022年度は25万7千t-CO2となっており、4万tとかなり大きく減っています。 人口構成があまり変わらなかったとすると、何か努力されたことがあったのか、それとも10年間の中で、一過性の何かがあったのでしょうか。 もし分かれば、次回教えていただければと思います。</p>
吉田会長	<p>ありがとうございます。 家庭部門だけではなく、産業部門なども同様に減っていますね。 単に構成する数が減ったのか、努力して負荷を減らしたのか、その辺りをよく見ていく必要があります。 難しいかもしれませんが、追える範囲でそれが分かる数値を出していただくとより明確になるかと思います。 他にいかがでしょうか。</p>
後木委員	<p>薪をストーブに使うようなものは、再生可能エネルギーの導入ポテンシャルのどこに該当するのでしょうか。</p>
丹羽主査	<p>木質バイオマス発電のような設備が該当すると思われませんが、その中に薪を利用したストーブが含まれているかはこちらでも把握しておりません。</p>
吉田会長	<p>家庭からの排出量というのはなかなか見えないのかなと思います。 また、木質バイオマス発電とは別ですが、江別市の太陽光発電の導入割合が2%とまだまだ足りないかなというところですので、導入を進めていけたら良いかなと思います。 他にいかがでしょうか。</p>
委員一同	<p>(なし)</p>
吉田会長	<p>次に、本日の議事(2)協議事項の「ア」各委員所属団体等の取組内容についてですが、名簿の順番に、地球温暖化対策について最新の取組内容がございましたら、ご紹介をよろしくお願いたします。 まずは、旭川ガスの本田支社長からお願いいたします。</p>
本田委員	<p>それでは旭川ガスからご報告をさせていただきます。 まず資料のスライド番号2をご覧ください。 皆様ご承知のところかと思いますが、本社のある旭川市と江別市では既にゼロカーボンシティ宣言をしております。 そのような中で、我々はエネルギーの供給会社としてCO2の削減について、どのように貢献できるかというところで、会社の重要な課題として業務を行っております。 次に、スライド番号3をご覧ください。 弊社では、昨今のエネルギーの中ではCO2の排出量が少ない天然ガスの普及拡</p>

	<p>大に取り組んでおります。</p> <p>グラフの二酸化炭素の項目をご覧くださいと、石炭を 100 とした場合、天然ガスは 57%と石油と比べて CO2 の発生量は少ないことから、天然ガスを使用いただくことで CO2 の排出量を下げていけないかということで取り組んでおります。</p> <p>次にスライド番号 4 をご覧ください。</p> <p>先ほど熱はどこで使われているかというお話がありましたが、やはりエネルギーとして使われており、燃料として現在は重油や灯油が使用されているところを天然ガスに切り換えていただき、CO2 の削減を進めていくというのが弊社の取組でございます。</p> <p>その中で、家庭向けの取組に関しましては、スライド番号 5 にあるエコジョーズという温水暖房機の普及がございます。</p> <p>従来の湯沸かし器は直接ガスの炎でお湯を沸かしていましたが、エコジョーズはこの排熱をさらに利用することで、エネルギー効率を 95%まで高めた商品でございます。</p> <p>次にスライド番号 6 をご覧ください。</p> <p>江別市内のエコジョーズの契約数ですが、2013 年が 473 件、2025 年の 3 月時点では 4,223 件となっております、世帯数に対しそこそこの割合で普及しております。</p> <p>1 年間の CO2 排出量で見ますと、石油セントラルの場合は 8.4t ですが、エコジョーズの場合 6.3t と大きく削減することが可能です。</p> <p>最後にスライド番号 7 をご覧ください。</p> <p>江別支社独自の取組ですが、再生可能エネルギーの導入ということで、太陽光パネルを元野幌のガスタンクのある施設に設置する計画があり、雪が降る前には設置する予定でございます。</p> <p>設置に伴い年間 6,100kW の電力を発電する予定で、CO2 に換算しますと 3.3t、当社の CO2 排出量で見ると約 4%の削減となります。</p> <p>ちなみにですが、江別支社で契約いただいている市内のガス全てが燃えますと、計算上 2 万 7480t の CO2 が出ていることとなります。</p> <p>この排出量を減らすということではありませんが、より多くの方に石油から天然ガスに切り換えていただきたいところです。しかしながら、設備投資等の問題がありますので、現在市内の様々な工場や古い建物などで天然ガスをお使いいただけないかということで活動しております。</p> <p>天然ガスがエネルギーとして全てにおいて良いという訳ではありませんし、CO2 を排出していますので、いつかはエネルギーとして駄目という時代が間違いなく来ると思います。それまでは、天然ガスをお使いいただくことで当面の CO2 削減に大きく貢献できるのではないかと考えております。</p> <p>以上でございます。</p>
吉田会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>委員の皆様から、何か質問等がありますでしょうか？</p>
村田委員	<p>最近、再生可能エネルギーから作られるメタンや水素の話がありますが、そういったものをエコジョーズなどで使うことは可能でしょうか。</p>
本田委員	<p>メタネーションのお話と思われませんが、日本には国内のガス会社で構成された日本ガス協会というところがあり、トップリーダーとして東京ガスさんや大阪ガスさんがおります。</p> <p>そこでは既に、CO2 を取り込んで水素と結びつけることでメタンを生成するという技術がございます。</p> <p>しかしながらコストが合わなければ当然導入できないので、そのコストを下げる努力をトップのガス会社が行っています。</p> <p>メタネーションにより生成されたメタンは既存の導管やガス器具で使えますので、ガス協会では導入を目指して開発に勤しんでおりますが、技術的にはかなり高い壁だと聞いております。</p>
吉田会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>

委員一同	(なし)
吉田会長	それでは次に、江別青年会議所の三上委員、お願いいたします。
三上委員	江別青年会議所の三上です。よろしく申し上げます。 青年会議所として、地球温暖化対策を事業で掲げるというお話は今のところ出ておりません。 ただ、青年会議所で使用する資料等は全部ペーパーレスにしており、このような委員会で出た情報は常にメンバーに共有し、現状把握できるような形にしております。 以上でございます。
吉田会長	ありがとうございます。 また何か取組がございましたらぜひご紹介いただければと思います。 次に、王子グリーンエナジー江別の坂口委員、お願いいたします。
坂口委員	王子グリーンエナジー江別の坂口です。 今回資料等はありませんが、弊社の日々の活動について改めて紹介させていただきます。 弊社の発電所は道内の間伐材、主に使われていない木材や捨てられるような木材を道内の山から集め、燃やしております。 先日も道内の木材集荷業者の方とお話しましたが、人手不足の感もあり、山に多々放置されている木の枝や、木材の加工で発生する端材をどのように集めるかが課題となっているとのことでした。 また、弊社では持ってきていただいた燃料を確実に燃やして効率よく電気を作るというところを維持するため、5月と11月に設備を停止し、点検しております。 5月の点検では少々不具合のある箇所も見つかりましたが、修理をして設備維持をし、発電を継続しております。 以上です。
吉田会長	ありがとうございました。 委員の皆様から、何か質問等がありますでしょうか？
岡崎委員	そちらで発電された電力は、江別市内ですとどちらに供給されているのでしょうか。
坂口委員	今はトドック電力さんへの販売が主ですが、王子・伊藤忠さんの共同会社である王子伊藤忠エネクスさんにも販売しております。
岡崎委員	江別市の公共施設には供給していないのでしょうか。
坂口委員	販売先の電力会社までしか当社では把握しておりません。
村田委員	岡崎さんのご質問に対する回答ですが、江別市役所では王子さんの木質バイオマスの電力を使っております。 それは非化石証書という証書付で購入しておりますので、再エネ 100%の電力となります。
吉田会長	ありがとうございます。 他にいかがでしょうか。
委員一同	(なし)
吉田会長	それでは次に、カーム角山の渡邊委員、お願いいたします。
渡邊委員	カーム角山の渡邊と申します。 今回資料等はありませんが、お話をさせていただきます。 弊社は、簡単に言うと酪農業となります。 角山地区で、約 600 頭の牛から牛乳を絞って営業しております。 再生可能エネルギーの話ですと、弊社は 10 年前の会社設立時から、ふん尿を利用したバイオガス発電を行っています。 発電した電力は全て北海道電力さんに売電しておりますので、その電力が具体的にどこでどのように使われているかは分かりませんが、一般家庭世帯に換算す

	<p>ると大体 500 世帯分の電力を作っており、年間の売電額は約 8000 万円です。  先ほどの再生可能エネルギーのデータの中に弊社の発電が入っているかは分かりませんが、そのような形で地球温暖化対策に取り組んでおります。  もし興味があればいつでも見学可能ですので、お声掛けいただければと思います。  以上です。</p>
吉田会長	<p>ありがとうございました。  委員の皆様から、何か質問等がありますでしょうか？</p>
委員一同	<p>(なし)</p>
吉田会長	<p>それでは次に、北海道銀行の坂本委員、お願いいたします。</p>
坂本委員	<p>北海道銀行の坂本です。よろしくお願いいたします。  資料ですが、まずはカラーの方をご覧ください。こちらは当行の頭取である兼間の方で、先般行われた GX と DX のパネルディスカッションの際に使った資料です。詳細については時間も限られているので割愛させていただきますが、GX と DX の取組で今北海道が力を入れていることと、それに対して銀行がどのように取り組んでいくかについて書かれています。  次に白黒の資料をご覧ください。2 ページ目では、GX に対しほくほくフィナンシャルグループとしてどのように取り組んでいるかが書かれています。  当行でも中期経営計画を作成し、最終的に地域に向けた GX/SX について取り組んでいくため、3 年間の目標を設定し、過去の実績と現在の実績を載せています。実際に 2025 年から 2027 年度までは、40 億円の収益累計額を設定しました。収益累計額という言葉は分かりづらいと思いますが、後程こういった商品がこの取組に直接結びつくということで説明いたします。  二つ目に取引先の価値向上ということで、ファイナンスソリューションを通じて、サステナビリティ経営を支援することを目的に、気候変動対策や人的資本、皆さんがお話されている環境にやさしい取組に対する融資を執行し、3 年間で 1 兆円を目指しております。  三つ目に自社の価値向上ということで、具体的には Scope 1、2、3 の目標を設定し、データ把握と目標に対する取組、目標水準を定めております。最終的には、2027 年度までに 6 万 6,400t の CO2 削減を目指しております。  3 ページ目をご覧ください。  具体的な取組として、2 月から白糖でほくほくソーラーパークの運転を開始しております。詳細は隣に掲載しておりますが、北海道電力さんを含めた 4 社でこちらの発電所を作り、銀行で使われる電気を賄うという形で行っています。  もう一つの取組として、こちらには掲載していませんが、留萌支店を ZEB 認証店舗として移転・建設いたします。ZEB 認証店舗の建設は、道内金融機関の店舗としては初となります。  4 ページ目をご覧ください。  現在江別市さんとも行っておりますが、自治体との取組や環境省庁との連携を非常に強化しております。引き続き何かわからないことがありましたらお申し付けください。  5 ページ目をご覧ください。  銀行として皆さまに対し何ができるかですが、この部分はまだ認知度が低いと思いますので、あえてもう 1 回お話をさせていただきます。  ここでは、皆さまが様々なことに取り組もうとしたときに出てくるニーズと、それに対応する当社のソリューションを載せております。  例えば「知る」の項目ですと、従業員にももっと GX/SX に取り組む必要性を理解させたい場合には、評価サービスや提携先のコンサル会社があるのでそちらを紹介いたしますし、それに伴って発生する費用についてもファイナンスという形で提供いたします。  他にも測る、減らす、創る、開示するにあたってどのように取り組めば良いのかわからない場合にも、まず銀行に相談していただければ、コンサル会社の紹介</p>

	<p>や資金供給などしっかりと取り組んでいきます。 6ページ目をご覧ください。 様々な補助金がありますが、調べていくと自分の事業で使えるかどうかという話になると思います。その際には、北海道銀行や北洋銀行さんなど各金融機関で親身に対応していただけたらと思いますので、どんどん活用していただければと思います。 以上です。</p>
吉田会長	<p>ありがとうございました。 委員の皆様から、何か質問等がありますでしょうか？</p>
村田委員	<p>資料の4ページですが、自治体との連携で右下に千歳市と書いてありますが、こういった人材交流をされているのでしょうか。</p>
坂本委員	<p>こちらはラピダスの導入にあたって、人材養成等の関係で交流しております。</p>
村田委員	<p>再生可能エネルギーの導入に関して千歳市と人材交流しているというわけではなく、あくまでラピダス社との交流でしょうか。</p>
坂本委員	<p>どちらかという、今はラピダス社からの要請で、企業誘致関係の情報提供をするための交流が多いです。</p>
吉田会長	<p>ありがとうございます。 他にいかがでしょうか。</p>
岡崎委員	<p>銀行さんはどちらかという事業者向けのサービスが主という感じでしょうか。</p>
坂本委員	<p>個人向けのサービスもございまして、例えば住宅ローンですと ZEH 住宅や省エネ住宅を建てる場合に一般の住宅を建てるよりも金利が優遇されます。 それ以外にも、ご融資の際の借入枠を活用した太陽光パネルの設置のご案内、補助金の活用についてもお伝えできます。</p>
吉田会長	<p>ありがとうございます。 他にいかがでしょうか。</p>
委員一同	<p>(なし)</p>
吉田会長	<p>それでは次ですが、時間の関係で日本リサイクルネットワーク・えべつの星委員から先をお願いいたします。</p>
星委員	<p>日本リサイクルネットワーク・えべつの星と申します。よろしく申し上げます。 まず1枚目の資料ですが、日本リサイクルネットワーク・えべつでは、市役所前の駐車場でのフリーマーケット開催を中心に、ごみの減量等の環境に関わる活動を行っています。 2枚目の資料ですが、こちらは買い物ゲームの紹介です。 市内の小学校3、4年生を対象に実施しており、ゲーム感覚で大きなパネルを使いながら分かりやすい言葉で、毎日の生活の中でのごみの減量に興味を持つような授業を行っています。</p>
吉田会長	<p>ありがとうございました。 委員の皆様から、何か質問等がありますでしょうか？</p>
委員一同	<p>(なし)</p>
吉田会長	<p>それでは次に、北海道電力ネットワークの西巻委員、お願いいたします。</p>
西巻委員	<p>北電ネットワークの西巻です。 弊社からは、A4縦の1枚ものの資料をご用意させていただきました。 最近の温暖化対策等の取組についてということで、一つ目はヒートポンプによる高効率機器などの推奨です。機器の販売を後押しするようなイメージです。 節電効果が期待できるヒートポンプを利用した暖房付エアコンやエコキュートなどの高効率機器、走行時にCO2を排出しない電気自動車などの対象商品をご購入いただいた方に、抽選で素敵な商品が当たるといったような内容でございます。 もしエアコン等を購入された方は、ホームページを見ていただいて、応募していただければと思います。</p>

	<p>二つ目は、私の所属している札幌東ネットワークセンター独自の取組ですが、昨年度、電気自動車のプロモーション動画を作成しました。各種イベントで動画を流して紹介しております。</p> <p>内容としては、電気自動車の電気を使って普段のキャンプでは体験できないことに挑戦してみたというもので、楽しさを伝えたいという思いで作成いたしました。</p> <p>温暖化対策の取組紹介については以上でございます。</p> <p>次に裏側のページですが、本日の協議会に際し、江別市様の方から、送配電網空き容量についてわかる資料がありましたら提供いただきたいというお話がありましたので、説明させていただきます。</p> <p>現在は、送配電網の空き容量を前提とした発電設備の連系接続という形ではなく、送電線の空き容量に応じて、発電出力を調整いただくことを前提に新規電源の接続を可能とするノンファーム型接続という制度が全国で整理され、再エネ連系が進められております。</p> <p>空き容量の考え方ですが、以前は出力 100kW の発電機があれば、常に 100kW の出力で接続できるようにするという考え方でした。この場合、空きがなくなった時に設備をより大きいものに作り変える必要が出てくるので、工事期間が発生したり、莫大な工事費がかかったりしてしまいます。そのため、現在は、空き容量を増やすための増強工事等をせずに、容量が空いている時間帯で発電していただくことを前提に再生可能エネルギー等を繋いでもらうという考え方に変わっています。</p> <p>江別市内の送電線においても、常時空き容量を確保することが困難な状況になっておりますので、送電線の容量が空いている範囲で発電していただくという前提になっております。</p> <p>なお、現時点では、まだ発電機の出力調整をしていただいたという実績はないということを確認しております。</p> <p>私からは以上です。</p>
吉田会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>委員の皆様から、何か質問等がありますでしょうか？</p>
村田委員	<p>八幡にある焼却処理場のところに大規模な太陽光パネルを設置することを検討してはいたしましたが、担当者に聞いたところ、焼却処理場で既に自家発電をして一部売電しており、これ以上発電設備をつけても送電線の容量が間に合わないのではないかと話がありました。</p> <p>空いている時間帯で発電できれば、設備を設置しても構わないという認識でよろしいでしょうか。</p>
西巻委員	<p>基本的には常に容量の限界まで使っているのではなく、空いた時間を利用して発電していただく形なので、現状空き容量がないので接続できませんという形ではないと思われま。</p> <p>しかしながら送電線を管理する立場の会社としては、他に使用していただく方に悪い影響が出ないことを確認させていただいた上で発電設備を接続いただくという技術的な検討をさせていただくステージはあると思っております。</p>
村田委員	<p>大規模な発電設備を設置しても影響がなければ構わないということでしょうか。</p>
西巻委員	<p>送電線の容量を超えてしまうおそれがある時間帯があれば、その発電設備の出力を調整していただくという契約を結びますので、発電設備の出力を調整する前提であることを理解していただければ、接続の余地があると考えます。</p>
村田委員	<p>ということは、全量自家消費であれば、影響がないので接続しても構わないということでしょうか。</p>
西巻委員	<p>接続の余地があると考えます。</p>
吉田会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
委員一同	<p>(なし)</p>

吉田会長	<p>先ほど、江別市の家庭部門における太陽光発電設備の導入割合が全世帯の2%で、まだまだポテンシャルがあるという話がありました。</p> <p>世の中の風潮としては太陽光パネルをどんどん増やそうとなっていると思いますが、それに対する送電網の調整というのは、家庭の場合どうなるのでしょうか。</p>
西巻委員	<p>ノンファーム型の契約については、家庭用の10kW以下の発電設備については対象外となりますので、ご家庭の接続につきましては、先ほどもお話ししたように、他の使用されている方に影響が出ないことを確認させていただいた上で、接続いただきます。</p>
吉田会長	<p>例えば導入割合である2%を100%にするのは中々難しいと思いますが、全国平均レベルにする場合に影響があるかないかという試算はされているのでしょうか。</p>
西巻委員	<p>低圧の発電機を接続する場合は、単純に発電機の容量を足し算するのではなく、使用する機器の電圧がきちんと動作する範囲に収まるかどうかを個別に検討させていただいた上で接続いただくという形になります。</p> <p>変電所からの距離や既存の電線の太さなどが電圧に影響しますので、その辺りを踏まえて検討する必要があるので、そのような試算はしていません。</p>
吉田会長	<p>送電線によって設置可能な上限が自ずと決まってくるということかと思えますので、現状の2%をどれだけ増やすかを考える際に、予め送電線の距離などがわかると思えば、ある程度試算ができるということでしょうか。</p>
西巻委員	<p>どこにどのくらいの容量の発電機を接続するかが重要な要素となります。単純に合計容量が何kWという大きさだけで語ることは困難です。</p>
吉田会長	<p>家は土地に固定されるので、太陽光発電のポテンシャルがある家から送電線の距離を計算すれば試算できるのかなと思いましたが、そういうわけではないのでしょうか。</p>
西巻委員	<p>1軒1軒を事前に試算するのは、量が膨大なので現実的ではありません。</p> <p>また、一度に全ての家を接続するのは困難ですが、1軒1軒少しずつ接続されると考えれば、対策工事をする期間もできるので、結果が変わってくると思われます。</p>
吉田会長	<p>横軸に時間をとる必要があるということですね。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
岡崎委員	<p>八幡に太陽光パネルを設置するお話がありましたが、その中で出てきた送電線の空き容量というのは江別市全体の容量ということでしょうか。</p>
西巻委員	<p>空き容量については、特別高圧受電か通常の高圧受電かで変わってきます。</p> <p>資料のイメージ図は、特別高圧受電の場合となります。</p> <p>通常の高圧線の場合は、電圧降下等の技術検討が必要となります。</p>
岡崎委員	<p>現在、それぞれのお家で太陽光発電設備を設置する際には、事前に相談いただくという形をとっているのでしょうか。</p>
西巻委員	<p>接続の申し込みをいただいて、それが問題ないということを確認した上で接続いただきます。</p>
岡崎委員	<p>わかりました。</p> <p>もう一つお聞きしたいのですが、先ほどの取組紹介の中でヒートポンプやEVのお話がありましたが、直接家庭などに対しての省エネや節電の働きかけやアドバイスに関わる相談は、ほくでんネットワークという理解でよろしいでしょうか。</p>
西巻委員	<p>個別の電気の契約の話でなければ、弊社からも省エネの話はできます。</p> <p>電気の契約に関わる話ですと、小売電気事業者からの説明となります。</p>
吉田会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>かつてはドリーム8のように価格の安い夜に電気を使ってもらうような流れがありました。現在は、昼に太陽光などで発電した電気を昼に使うという形が主流なのではないでしょうか。</p>

西巻委員	私が30年ぐらい前に入社した頃は、電気のピークが昼の時間帯に集中していたので、空きのある夜の時間帯に使ってもらう深夜電力をどんどん増やそうという話がありましたが、それを進めていった結果、現在は夜にもピークが出来てしまいました。そのため、現在は深夜電力を安くしてどんどん使ってもらおうという状況にはありません。
吉田会長	深夜電力が安いメニューや特定の機器を設置している場合に割引するものはどんどん終了して、基本的には電力需要が平らになるようにしているということですね。 ただ、太陽光発電は基本的に日中にしか行われないので、需要と供給のバランスで言うと、昼間の供給が過多になってしまうのではないかと思います。 それについて、何か対策等は立てられていますか。
西巻委員	基本的には、使用される電力と発電する電力がイコールじゃないと周波数50Hzを保てませんので、そのバランスが崩れましたら、先ほどお話ししたノンファーム型接続で契約をしていただいた皆さんに発電設備の出力を調整していただく等により、使用量と発電量のバランスを取るようになります。
吉田会長	少しもったいない気もしますね。 蓄電池などを活用して再生可能エネルギーで作られる電気を貯めてもらうことで、発電出力を抑えないで済むような仕組みを検討しないといけない時代になってきたということですね。
西巻委員	そうですね。 最近は蓄電池を扱う事業者さんがどんどん増えておりますが、そういった状況の中でも、使用量と発電量のバランスを常にとれるよう考えていく必要があると思います。
吉田会長	新しいステージに入って来つつあるのかなという感じがしました。 ありがとうございます。 他にいかがでしょうか。
後木委員	この前、子供のPTAの関係で学校に行きましたが、3階に上がった瞬間にすごく暑さを感じました。 江別市内の学校や施設の断熱改修はどの程度進んでいるのでしょうか。
丹羽主査	断熱改修についてどの程度進んでいるかは把握しておりませんが、温暖化の影響で気温も上がっていることから、クーラーを設置するなどの対策を進めていこうという話にはなっておりますので、そういった部分で暑さ対策については進めているという形になります。
吉田会長	ありがとうございます。 現在、小中学校のクーラーやエアコン設置はどのぐらい進んでいるのでしょうか。
堂前室長	現在、教育委員会が進めている最中ですが、昨年度にまずは全小中学校の保健室にエアコンを整備しました。 そして今年度から3年計画で、小中学校の全教室にエアコンを整備する予定ということで聞いております。 エアコン整備にあたっては、まずは配電盤から抜本的に変えていかなければならないということも聞いておりますので、そういったところも含めて概ね3年を目途に進めていく予定とのことです。
吉田会長	ありがとうございます。 私は札幌市在住ですが、札幌市内の一部の学校にはクーラーが設置されたようですが、今年は使わないそうです。 全ての学校に設置するまでは使えないのかなと思っておりますが、機器も古くなっていくので使わないのはもったいないと感じました。 他にいかがでしょうか。
岡崎委員	先ほど3年で全教室にクーラーを設置するという話がありましたが、現状の建物にクーラーを設置してもエネルギー効率が悪くなってしまうので、断熱改修や設備改修を行って消費エネルギーを抑えることにも取り組んでいく必要があると

	<p>思います。</p> <p>これはおそらく建設部や教育委員会など様々な部署と連携していく必要がある内容になると思いますが、ご検討いただければと思います。</p>
堂前室長	<p>市内の小中学校については、教育委員会が担当となってエネルギー効率についても視野に入れながら進めていくことになると思いますが、まずは近年の猛烈な暑さから子供を守らなければいけないという点を喫緊の課題と考え、対応を進めているのではないかと考えられます。</p> <p>しかしながらご指摘いただいたエネルギー効率についても、施設整備という視点からは検討されるべきものではないかと考えております。</p>
吉田会長	<p>建替の時期などいろいろ考えた上で、順次取り組んでいく必要があるのかなと思います。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
委員一同	(なし)
吉田会長	それでは次に、えべつ協働ねっとわーくの干野委員、お願いいたします。
干野委員	<p>NP0 法人江別協働ねっとわーくの干野と申します。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p> <p>普段は、市内の市民活動団体の中間支援団体として活動しております。</p> <p>また、学地域定着推進広域連携協議会という、市内4大学の学生を対象に地域活動への参加や事業所見学を通じた地域定着を進める協議会の事務局にもなっております。</p> <p>先日開催のえべつ環境・SDGs 広場でも大学生のボランティアを数名派遣しましたが、担当ブースの説明を淀みなくこなしており、教育効果としても素晴らしいものだと思います。</p> <p>また、今年の9月15日には江別市民活動見本市と題しまして、各市民活動団体のブースやポスター展示、リーフレットの展示などを行います。</p> <p>えべつ環境・SDGs 広場に出展していただいた団体の展示も数多くございますので、各団体の方にはこれから案内が届くと思いますが展示のご協力と、市民の皆さまにおかれましては、是非会場に足を運んでいただきたいと思っております。</p> <p>環境に関わる取組ですと、各市内の児童会の児童を対象とした出前環境学校について今年度も実施を進めており、各学童のご担当の方と日程調整を進めております。</p> <p>また、昨年度ですが拠点にしております江別市民活動センター・あいこーら一設備があることから、江別市内のクールシェアスポットとして指定していただき、市のホームページでもご紹介に預かっております。</p> <p>他にも江別市内の事業者さんや全国の事業者さんからカレンダーを寄贈いただき、それを地域の方々にお配りするカレンダー市というものを開催しております。</p> <p>昨年度は、道内外より約4,000点のカレンダーを寄贈いただきました。その中には当協議会参加団体であるえべつ地球温暖化対策地域協議会様や日本リサイクルネットワーク・えべつ様、北海道電力株式会社総合研究所様、北海道銀行様、江別市様から寄贈いただいたものもございます。</p> <p>来年も1月末までカレンダーの寄贈を募集します。私としても、活動に協力してくださる事業者様が多数いらっしゃると紹介したいので、ご協力いただけますと幸いです。個人からの寄贈もお待ちしております。</p>
吉田会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>委員の皆様から、何か質問等がありますでしょうか？</p>
委員一同	(なし)
吉田会長	<p>皆さんカレンダーの準備をして、是非協力しましょう。</p> <p>それでは次に、えべつ地球温暖化対策地域協議会の安倍委員、お願いいたします。</p>
安倍副会長	えべつ地球温暖化対策地域協議会の安倍です。岡崎さんと一緒に活動しています。

	<p>私どもの協議会と江別市との共催という形で、先週末に第 35 回えべつ環境・SDGs 広場を実施しました。写真付きの資料をご覧くださいとわかりますように、様々な団体さんに出展していただきました。</p> <p>また、来場者についても今年は 2 日間で 680 名の方々がいらっしやってくださいました。</p> <p>環境・SDGs 広場では、それぞれの団体さんが活動していることをベースに、来ていただいた方と様々なことを一緒に学び合えるような出展をしていただいています。</p> <p>酪農学園大学さんやえべつ協働ねっとわーくさん、北電ネットワークさんのほか、王子エフテックスさんにも出展していただき、2 日間、多くの市民の方々ととてもにぎやかに活動できたと思います。</p> <p>いらっしやった方々に、環境関係や SDGs 関係の様々な取組を知っていただく機会を提供することが目的ではありますが、それぞれの団体さん同士のネットワークを広げていただくことも、もう一つの大きな目的としています。</p> <p>実際のアンケートでは、団体さんと接点を持つことができてよかった、お客様の声を直接聞くいい機会だった、子供たちと一緒に来ている方が多く、実験で予想外の結果に驚いたり、科学的に考え、理解できることに納得して領いたりする子供たちの様子が新鮮だった等の意見をいただいておりますので、今年も目的を達成できたのかなと思っております。</p> <p>来年も引き続き実施の予定をしておりますので、出展をお考えいただければ幸いです。</p> <p>ご参加いただいた方、協力いただいた方、本当にありがとうございました。私からは以上です。</p>
吉田会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>大変な盛り上がりで、その熱気で会場も暑かったですね。本当にお疲れ様でございました。</p> <p>委員の皆様から、何か質問等がありますでしょうか？</p>
委員一同	(なし)
吉田会長	<p>それでは次に、北海道地球温暖化防止活動推進員の岡崎委員、お願いいたします。</p>
岡崎委員	<p>お手元の資料をご覧ください。</p> <p>一つ目ですが、私が所属している北海道環境カウンセラー協会が、えべつ環境・SDGs 広場で出典した際の資料です。</p> <p>出展内容ですが、「知ってる？ゼロカーボンに役立つマークやラベル」ということで、九つのラベルを紹介し、皆さんが知っているラベルのところにシールを貼ってもらいました。ラベルの貼ってある紙をひっくり返すと、そのラベルがどんな内容か、どこについているか、どんな役割を果たしているかが書いてあります。</p> <p>一番皆さまが知っていたのはエコマークでしたが、えべつベジタブルライフ協力店のマークが 3 番目ぐらいに知っている方が多く、すごいと思いました。</p> <p>出展してくださった企業さんにも参加していただきましたが、よく知っていらっしやって、やはり環境に取り組んでいる企業さんはすごいということが分かりました。</p> <p>裏面ですが、江別市内で収穫量の多い野菜を 12 個ピックアップし、その中で皆さんが推す野菜はどれかを聞いたものです。</p> <p>収穫量ではブロッコリーや玉ねぎがすごく多いのですが、皆さんの推す野菜ではトマトとスイートコーンが 1 位、2 位となりました。</p> <p>また、野菜の塗り絵もしてもらいましたが、その際に浦幌産の廃棄野菜をアップサイクルしたクレヨンを使用してもらいました。</p> <p>今回の環境・SDGs 広場ですが食と関連した展示が多く、映画は「食べることは生きること～アリス・ウォータースのおいしい革命～」というものでしたし、健康推進担当さんからはベジチェックという野菜摂取量を測定する機械を出してください、情報大学さんからは簡単食事バランスチェックというものを教えてください</p>

	<p>さいました。</p> <p>私達の取組は、市民の方や事業者の方向けの内容が多いのですが、なかなかそれがどんな効果に繋がっているかわかりづらく、足を運んでもらう工夫など、難しいなと思うことが様々にあります。</p> <p>そこで皆さんにご提案としてお配りしたものがございまして、一つは「気候変動対策の普及啓発にナッジを！」と書かれている資料です。</p> <p>ナッジについては既にご存じだと思いますが、軽くつつくという意味から、そっと後押しすることで取組を促進することを指します。</p> <p>そのナッジに関する講演がありましたので、紹介します。</p> <p>講師は中部のクールチョイス普及啓発促進研究会を作られたEPO中部の方です。その研究会ではナッジの活用ガイドやチェックシートなどを作られており、足を運んでもらうためにどのような工夫をしたら良いか、実際に参加した時にどのように取り組んでもらうか、フォローアップとしてどうすればその後の行動を進めていけるか、といういくつかの段階に分けてナッジのデザインを紹介しております。</p> <p>読んでいただいても参考になることは沢山あるかと思いますが、できればこの講師の方をお呼びして、皆さんで学んで効果を高めるような機会を、この場でもできないかなということで、ご提案をしたいと思います。</p> <p>私の所属する他の団体でもこういった提案をしたいと思っていますので、複数の団体を呼んでまとめて実施すれば費用もお安くなるのではないかと思います。</p> <p>以上です。</p>
吉田会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>環境に関する具体的なナッジを提案していただけるということで、様々な側面で役に立つのかなと思います。</p> <p>委員の皆様から、何か質問等がありますでしょうか？</p>
委員一同	(なし)
吉田会長	それでは次に後木委員、お願いいたします。
後木委員	<p>未利用木材の活用について考えているのですが、現状では個人的に家で薪ストーブとして使っているだけです。</p> <p>それ以外に何か良い仕組みが作れないか考えているのですが、例えばこの協議会の委員以外の実行者を募集するのはいかがでしょうか。</p>
吉田会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>薪について、様々な事業者さんで活用していただければといったお話でした。</p>
後木委員	<p>以前吉田先生にお話しさせていただきましたが、酪農学園大学の敷地内に薪を加工する場所や積んで置ける場所を作っていただき、出来上がったものを配達出来るような仕組みが作れないか考えています。</p>
吉田会長	<p>当大学の敷地には昔から白樺並木がありますが、かなりの年数が経って段々と弱っており倒木の危険もあるということで、前に樹木医に見ていただいた時には、7、8割は植え替えをしなければならぬという状況でした。全部一気に切ってしまうと景観的にも良くないですし、昔の方々からの思いもありますので、少しずつ再生しようということで、裏の野幌森林公園から苗木を取ってきて、それを植えることで少しずつ更新しております。</p> <p>また、その時に切った木をどうするかについても現在検討中で、木材加工製品を作ることで活用しようとしております。</p> <p>それ以外にも、非常に広いキャンパスにたくさんの木が生えていますので、それらの枝払いをした後どうするかも課題になっています。</p> <p>せっかくCO2を吸収してくれていた木ですので、それらの木材を有効活用して、地中から化石燃料として引っ張り出さないような活動にできればと思います。</p> <p>委員の皆様から、何か質問等がありますでしょうか？</p>
岡崎委員	王子グリーンエナジーさんのところで木材を回収できないのでしょうか。
坂口委員	回収の際に、廃棄物の木材ではないという証明が必要となります。

	<p>また、これは紙の話になりますが、消費者から古紙を集める業者さんがいて、それを取りまとめる問屋さんがいて、そこから製紙工場に古紙が届くというサイクルがあります。</p> <p>それと同様に、木材についても集める業者さんがいますが、市民の方が直接持ちこんだ木材の回収まで行い、果たして採算が取れるのかという話になります。</p> <p>昔は割り箸を回収していたようですが、今はやられていないのではと思います。</p> <p>また、木をどう集めるかについてですが、先ほども話しましたが山の中の間伐材も集めきれない状況です。</p> <p>自治体においては、入札で決定した業者が集めた木を回収し、その業者が問屋に卸し、そこから当社に来るといった流れはあります。</p> <p>いずれにしても、全国的に身近な木の回収まではカバーできていないのが現状だと思います。</p>
吉田会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>様々な課題がありますよね。</p> <p>小さい範囲からでも検討出来ればと思います。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
委員一同	(なし)
吉田会長	それでは次に海保委員、お願いいたします。
海保委員	<p>私は市の子育て支援のボランティアをさせていただいておりますが、そこでは小さな赤ちゃんや2、3歳ぐらまでのお子さんを連れてお母さんたちと接する機会が多々あります。その時に、この場で学んだことをさりげなく話題にできるよう心がけております。</p> <p>お母さん方も、子育てでそれどころじゃないところもある一方で、聞いてみるとやはり子供の将来の環境をすごく気にかけています。</p> <p>家庭からの排出量が約20%程度というのを何かで聞いていたので、今日、家庭からの排出量が35%という話を聞いて、それよりも江別市は割合として多いのであれば、一人ひとりが少しでも意識を変えて行動すれば大きな力になるということを少し感じました。</p> <p>今日また知ったことをお母さん方にもお話しして、意識の広がりがまた少し深まっていくことを目標にしていきたいなと思いました。</p> <p>以上です。</p>
吉田会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>様々な形で伝えていくことが大事ですね。</p> <p>委員の皆様から、何か質問等がありますでしょうか？</p>
委員一同	(なし)
吉田会長	それでは次に村田委員、お願いいたします。
村田委員	<p>江別市でございます。</p> <p>江別市提出資料No.江別①と記載のある資料をご覧ください。</p> <p>まず一つ目ですが、令和7年度の江別市家庭向け脱炭素化普及促進補助金を、今年度も実施いたしました。</p> <p>昨年度初めて江別市で太陽光パネルと蓄電池の補助制度を始め、昨年度は予算1,000万円が2か月でなくなり、申込み締め切りとなりました。</p> <p>今年も同じく1,000万円の予算で6月初めから受付開始したところ、申込みの勢いがすごく、昨日時点で、64件、1,000万円となり、締め切りとさせていただきます。</p> <p>昨年は、61件でしたので、120軒以上のお宅に太陽光パネルが付いており、新築でも太陽光設備の設置が当たり前の時代になってきております。大変人気のある補助金ですので、来年度も継続できるよう予算要求したいと考えております。</p> <p>二つ目でございますが、市民向け脱炭素セミナーを実施する予定でございます。</p> <p>11月8日の土曜日10時から、江別市民会館小ホールで予定しております。</p> <p>第1部は、昨年度実施して非常に好評でしたUHBみんテレにご出演の気象予報</p>

	<p>士・菅井貴子さんに今年度もお願いする予定です。</p> <p>第2部は、大手民間企業の方にご講演いただく予定で、現在調整中であります。内容が確定しましたら、市のホームページ等でご案内いたしますので、多くの方のご参加をお待ちしております。</p> <p>続きまして三つ目ですが、今年の市民環境講座の実施でございます。記載の通りの日で開催いたします。</p> <p>第1回は、当協議会の会長の吉田教授に、「科学が解き明かす海からのメッセージ ～地球の未来を守るために～」というテーマで海からの視点でご講演いただきます。第2回は、「名木ウォッチング」、第3回は、「エゾシカと向き合う！～命と資源の未来を考える～」、第4回は、エコドライブに関する講習会となっております。</p> <p>こちら内容が確定しましたら、市のホームページ等でご案内いたしますので、多くの方のご参加をお待ちしております。</p> <p>四つ目ですが、昨年度から実施しております、高校生向けの脱炭素出前セミナーです。</p> <p>昨年度は、江別高校の3年生全員に対して、体育館で実施し、大変好評でした。今年度、市内各校へ問い合わせましたところ、江別高校に加え、野幌高校、大麻高校からも、是非やっていただきたいとご依頼がありましたので、吉田教授には、大変お忙しい中恐縮ではございますが、未来を支える高校のためにひと肌脱いでいただきたいと存じます。</p> <p>アンケート結果を見ましても、地球規模の温暖化という難しい内容を分かりやすく解説して下さる点と、しかもそれが、フィールドワークの実例を交えながら、自分たちの身近な所にまで危機的な状況で迫っているということについて、高校生から学校の先生まで高く評価されております。</p> <p>最後に、クールシェアスポットの取組でございます。資料No.江別②をご覧ください。</p> <p>全国的には、クーリングシェルターという、気候変動適応法に基づく指定暑熱避難施設についてマスコミ等で耳にするかと思えます。</p> <p>熱中症特別警戒アラートが発表された際に、住民が暑さをしのぐために利用できる冷房設備のある施設で、暑さ指数が35、これは気温だけではない数値ですが、道内160地点でこの35に達する場合は、過去に例のない暑さで、危険な暑さもあるかに超えた値となります。</p> <p>令和6年度では、全国で熱中症警戒アラートが全国で1,722回発表された一方、暑さ指数35以上の熱中症特別警戒アラートは、全国でも発表が0回でした。</p> <p>熱中症特別警戒アラートは、北海道では現在考えられませんので、江別市では、クーリングシェルターを指定しておりません。</p> <p>代わりに、環境省が進めているデコ活の中で、家庭からの温室効果ガス排出削減を目指し、クールシェアスポットという取組がありましたので、江別市では、民間企業の協力を得ることができて数を増やしており、公共施設も含め、現在市内15施設をクールシェアスポットとして登録し、市のホームページで公開して、皆さまに涼んでいただこうというものであります。</p> <p>江別市からは、以上でございます。</p>
吉田会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>太陽光の補助金が昨日で締め切られたということで、すごい反響ですね。皆さんが接続できるような設備が整えばと思います。</p> <p>また、私も様々なところに登場しており大変恐縮ですが、皆さんお時間がありましたらぜひお越しいただければと思います。</p> <p>委員の皆様から、何か質問等がありますでしょうか？</p>
岡崎委員	<p>江別市の環境目標1の中で、大きく分けると江別市、家庭、事業者、再エネ、脱炭素の五つの柱を施策として挙げていたと思います。</p> <p>皆さんの話を聞いていますと、家庭向けの取組と事業者向けの取組はそれぞれされていると感じます。</p> <p>しかしながら、その取組がどんな成果に繋がったか、その後の効果把握までに</p>

	<p>は至っておらず、普及啓発を一生懸命してもそれが本当に皆さんの実践に繋がっているのか、皆さんが欲しい情報をきちんと提供できたかが分からないのではと思います。</p> <p>情報提供の機会ですと、例えば住宅の場合、毎年3月か4月頃に江別市でリフォームフェアというのが行われていて、その際に再エネや脱炭素のお話などもされているのかなと思いますが、実情はなかなか見えてきません。</p> <p>そのため、この協議会以外の機関との連携も必要だと思いますし、江別市さんだけでどのようなデータが必要かを推測するのではなく、小規模のワーキンググループを作り、その中でアイデアを出し合いながら考えていくような場があった方が実際に進んでいくのかなと感じました。</p> <p>この協議会は年に2回しかありませんが、せつかくこのような形で集まっていますので、やってよかった、次はこんなことができた、という内容が言えるような仕組みにできたらいいかなと思います。</p> <p>また、委員の任期が5年ありますが、5年経つと自分もそれなりの歳になってしまうことに気が付き、早く取り組んでいかなければならないと思いました。</p> <p>以上です。</p>
吉田会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>確かに任期が令和11年までと長丁場ですね。</p> <p>細かな検討事項を持ち寄ってこの協議会で話し合いたいということですが、確かに毎月開催しているわけではないので、それぞれで課題として持ち帰っていただき、できることを少しずつ進めながら市の方に投げかけていくことも場合によっては必要かと思います。</p> <p>また、事業者の方、私のような研究教育機関の方、市民向けに様々な活動をされている方、市民の方など、それぞれの立場で考えていることや出来ることがあると思います。市役所に全て丸投げするのではなく、様々な提案などを持ち寄って検討していくことが一番良いと思いますので、そのような仕組みも作れたらと考えております。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
委員一同	(なし)
吉田会長	<p>本来ですと、次は議事(2)の「イ」の「実行計画・区域施策編の環境目標1の推進について」ということで、皆さまからご説明いただいたそれぞれの取組内容を踏まえて検討していく予定でしたが、時間になってしまいました。大変申し訳ございません。</p> <p>期間が空いてしまいますが、協議事項のイにつきましては次回の協議会で話し合いたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p>ご意見等ございましたら、よろしく願いいたします。</p>
村田委員	<p>岡崎さんからのご提案ですが、協議会の開催回数が少ない件につきましては大変申し訳ございませんが、皆さま業務等で大変忙しく、日程調整が難しい状況でございます。</p> <p>つきましては、今後皆さまにアンケートをお配りして意見を集約したいと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
吉田会長	<p>よろしく願いいたします。</p> <p>それでは次に議事(3)の「その他」ですが、委員の皆様から全体を通して何かありますでしょうか？</p>
委員一同	(なし)
吉田会長	それでは事務局から何かありますでしょうか？
丹羽主査	<p>次回の日程ですが、今年度の秋または冬頃に、開催を予定しています。</p> <p>事務局からあらためてご連絡をさせていただきますので、ご多忙のことと存じますが、ご参加のほど、よろしく願いいたします。</p> <p>また、先ほどお話しさせていただきましたアンケートや、それ以外にもご提案を随時承っておりますので、よろしく願いいたします。</p>

吉田会長	<p>よろしく願いいたします。  またアンケート等にもご回答いただければと思います。  ただいまの事務局の説明に対して、ご質問やご意見などありますか？</p>
委員一同	<p>(なし)</p>
吉田会長	<p>なければ、以上で本日の案件はすべて終了いたしました。長時間にわたり、ありがとうございました。  それでは、進行を事務局にお返しいたします。</p>
丹羽主査	<p>吉田教授、ありがとうございました。  それでは、以上をもちまして、令和7年度 第1回江別市地球温暖化対策実行計画推進協議会を閉会いたします。  本日は、長時間にわたりご参加いただきまして、誠にありがとうございました。</p>